

平成26年(2014年)6月22日(日曜日)

子どもの登山教育提案

世界遺産登録1年 富士で富士山シンポ

世界遺産登録から1年を迎える富士山について考えるシンポジウム(同実行委員会主催)が21日、富士市内で開

かれ、山小屋関係者や環境保全活動に携わる地元住民らが、登山環境の改善や安全対策について意見交換した。



富士山のエコトイル

設置などに関わった渡辺豊博都留文科大教授が講演し、「開発を抑え、利用度を低減していくのが世界遺産の意義」と登山者数抑制に向けた具体策の必要性を訴えた。「5合目以下の自然が持つ潜在的な魅力が評価されていない」と指摘し、登山客の詳細な調査とルート分散化を求めた。渡辺教授ら4人で実施したシンポジウムでは、「登山者数を1割減の約27万人に」という案や、子どもへの登山教育実施を提案する声が上がった。登山者のマナー啓発などを行

富士登山の現状や安全対策などについて意見交換したシンポジウム

21日午後、富士市内

う富士山エコレンジャーは「寝ないで登る」とだけのツアーもある」の石川明夫さん(富士宮市)は「弾丸登山小屋で短時間休憩する策強化を求めた。」